

## 第21回 四国国語教育研究大会報告

### 1 香小研国語部会小豆支部の研究テーマについて

# 生きて働く言語の力を育む国語科学習

— 思いや考えを豊かに伝え合う力の育成に向けて —

#### (1) 具体的・系統的な言語の力の設定

「生きて働く言語の力」を具体的・系統的に設定するにあたり、香小研小豆支部は、「思いや考えを豊かに伝え合う力の育成に向けて」をサブテーマに、以下の3側面からとらえている。

- ・ 正しく伝え合う力…………… 情報を伝え合うために必要な知識・技能としての言語の力
- ・ 思い合う力…………… 生活の中で相手や目的意識、場面や状況意識をもって言語を運用する力
- ・ 自分らしさを認め合う力…………… 自他のよさを認め、学習を評価し価値付けていく力

#### (2) 目標レベルを受けた言語活動研究・言語活動配列研究・言語活動展開研究

##### ① 「豊かに伝え合う力」を育てる言語活動研究

###### ア 言語活動における力の見極め

【言語活動を方法的な価値と能力的な価値の両面からとらえる】

###### イ 伝え合う喜びを感じられる言語活動

【児童の言語生活に根ざし、自己実現や他者との共存共生を図りながら言語生活力を高める】

##### ② 言語活動を生かした単元構成

領域統合型単元	主目標と異なる領域の活動を入れることで効果的な学習を期待するような単元。
領域関連型単元	1単元の中で複数領域の目標をもつ単元。
領域総合型単元	テーマに基づき、各領域の「思い合う力」を総合的につけるような体験的で実の場としての学習となる単元。

##### ③ 「豊かに伝え合う力」を育てる単元構成

###### ア 「やってみたいこと」と出合う場

###### イ 言葉の力を使って課題を解決する場

###### ウ 学習した充実感を感じながら、次への課題が生まれる場

#### (3) 目標レベル・単元レベルを受けたきめ細かな支援・評価の在り方

##### ① 言葉の力が生まれる場

##### ② 言葉の力の有効性を味わう場

##### ③ 言葉への新たな課題が生まれる場

2 日 時 平成15年11月21日(金) 9:20~16:00

3 日 程

9:20 9:50 10:05 10:10 10:55 11:10 12:00 13:00 14:00 14:10 14:50 15:50 16:00

受 付	朝の 活動	移 動	提案授業	移 動	分科会 I (提案授業 をめぐって)	昼 食 休 憩	分科会 II (提案発表 を中心に)	移 動	全 体 会			講 演	閉 会 式
									開 会 式	研 究 発 表	講 評		

●朝の活動(9:50~10:05)

学 年	活 動	活 動 の 内 容
1 年	読み聞かせ	学校の支援ボランティア2名による読み聞かせ。お話の世界へと誘います。
2 年	いろはカルタ	新ルールによる「いろはカルタ(星城版)」で、ことわざを楽しく学びます。
3 年	自由読書	読書は心の栄養。豊かな心を育てます。
4 年	視写	正しく書くことは学習の基本です。朝の心も落ち着きます。
5 年	五色百人一首	古き良き日本語の美しさを味わいます。みんな大好き百人一首。
6 年	百編の詩	みんなで選んだ百編の詩。声に出して紹介します。いくつ暗唱できるかな。

●提案授業(10:10~10:55)

領域	学 年	単元名	授業会場
話 聞 す く こ と	1 年	「学校でのことをおしえてあげよう」	1 年教室
	2 年 (少人数)	「おもちゃの作り方を 教えるお店をひらこう」	2 年教室 低学年学習センター
書 く こ と	3 年 (少人数)	「お祭り事てん」を作ろう 『つな引きのお祭り』	3 年教室 中学年学習センター
	4 年 (少人数)	「環境を守るくふう」を しょうかいしよう 『ウミガメのはまを守る』	4 年教室 白組
読 む こ と	5 年 (少人数)	文章の仕組みを考えながら 『動物の体』	5 年教室 高学年学習センター
	6 年	作家と作品をかかわらせて 『宮沢賢治』	体育館

## 「豊かに伝え合うこと」とは

自分らしさや自分の思い・考え・認識を言葉を通して仲間に伝え、仲間のその人らしさを言葉を通してしっかりと受けとめる力（言葉を通して人と関わる力）。この力をいかに付けるかということが今の私の国語教室教育の中心である。

## 実践例から

## 1 語り「百の言の葉」

小説の冒頭、教科書教材、詩、古文、歌詞などの言語作品集である「百の言の葉」を使う。詳しい読み取りはせずに、自分なりに作品世界をイメージし、自分なりに音声表現をし、それを仲間に分かち合ってもらえるように様々な工夫をする活動。

作品世界について伝え合う方法として、場面のイメージや登場人物の思いを感想文に書くこと、主題について話し合うことなどがあるが、他の表現手段としてこの「語り」があると考えている。

## 語りの観点

- ①表情・・・ 音読・朗読ではなかなか使えない。悲しさ・嬉しさを表すのに表情を使う方法は極めて有効。
- ②速さや間・・・ 一定の速さではなく「間」を取るの難しいこと。静かな穏やかな場面はゆっくり間を取って。緊迫した場面は畳みかけるように。速さや間を工夫すると作品世界を伝えるのが可能になる。
- ③声量・・・ 音読・朗読と同じ。
- ④視線・・・ 一番重視したい観点。視線を全員に巡らせることで相手意識を持てる。星城小6年生の朝の活動「詩のボクシング」でも視線を意識している姿が見られた。  
視線を落とす・・・悲しさを表現する  
視線を上げる・・・希望を持つ

語りは全ての音声表現の基である。聞く側の指導もできる。聞く側は、いつかやってくる表現者の視線をきちんと受ける。聞いているというアイコンタクトをする。話す側は聞いてもらう仲間のいることを確認する。これは、気持ちのよいコミュニケーションである。一生懸命に聞いてくれるからこそ、一生懸命に話せる学級集団を作りたい。今日の星城小2年生・3年生はこれを目指していた。

## 2 作品の星座と語り

物語の単元で重視している文字言語の読解の方法。初読で行う自力読み。

- 作品の構造を把握する。
- 「人物」「時」「場」の設定をまとめる。
- 核となる言葉や「作品の心（主題）」をまとめる。  
\* 主題という言葉は使わない。作品が自分に語りかけてきたことと定義する。  
主題は読者にある。

読解と表現は表裏一体。豊かに伝え合うためには自分なりの思いや考え、読みをもつことが必要。いい加減な思いや考えでは本気で伝え合うことはできない。思いがあるから伝えたいのであり、人から聞きたいと思う。「伝え合う」という力を養うということは自分の思いをいかにつかませるか、読解の力さえも保証されなければ無理である。

伝え合う力を表現の力として限定して話してきたが、香小研小豆支部の能力分析表の中での「豊かに伝え合う力」は違っている。表現力だけでなく、書く力・読む力・言語事項まで、あらゆる言語活動能力を3つの観点から分類・整理し直し、低中高で系統化させており、極めて先進的な研究である。このように具体的であるからこそ評価が正しくできるのである。

## 3 ある児童との出会い

いくつかの辛い事件を見聞きしたり、自分でも経験したりした2年生の児童。大人を信じられなくなり、一人で登校できなくなった。その児童に、人と言葉を通してコミュニケーションすることは本当は素晴らしいことを教えていかなければならないと感じた。そのために人と言葉を通して関わる単元や学習活動を組むことにした。単元「ZOO」（上野動物園で動物博士となって初めて出会う大人に動物の秘密を話す。）や「お話のお店」（レオ・レオニの語りをする。）がそれである。大人はほとんどの人がいい人、語りを通して気付かせようとした。

3年生になってようやく一人で登下校できるようになった。国語の学習の成果であると思いたい。今5年生。1年生の時の「いつでも会える（菊田まりこ作）」の語りをもう一度してもらったので紹介する。（たくましく晴れやかな表情の少女の語りのビデオ）

## 4 最後に

研究会は終わっても、研究は終わらない。お互いに発展途上である。これからも夢に向かって頑張らしましょう。